

# 学校評価 2回目 報告

京都市立高野中学校 校長 上野 正智

平成27年 3月

12月に行いました学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

生徒246名、保護者192名、教職員28名のアンケートの集計結果を掲載します。

重要度	実現度	点数
重要である	よく出来ている	7
やや重要である	大体出来ている	5
あまり重要ではない	あまり出来ていない	3
重要でない	出来ていない	1
わからない	わからない	0

左の分布図は、上の表のように点数化し、平均を表したもので、横軸が「重要度」を、縦軸が「実現度」を表しています。赤い縦と横の線は、全部の項目の平均を表しています。右にある項目ほど重要で、上にある項目ほど実現できていると考えられます。また、7月アンケートからの変化を赤い矢印で表しています。

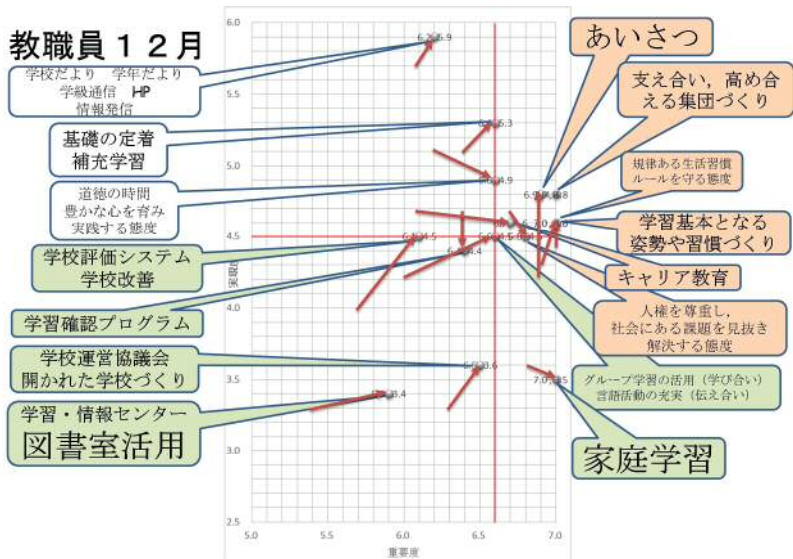
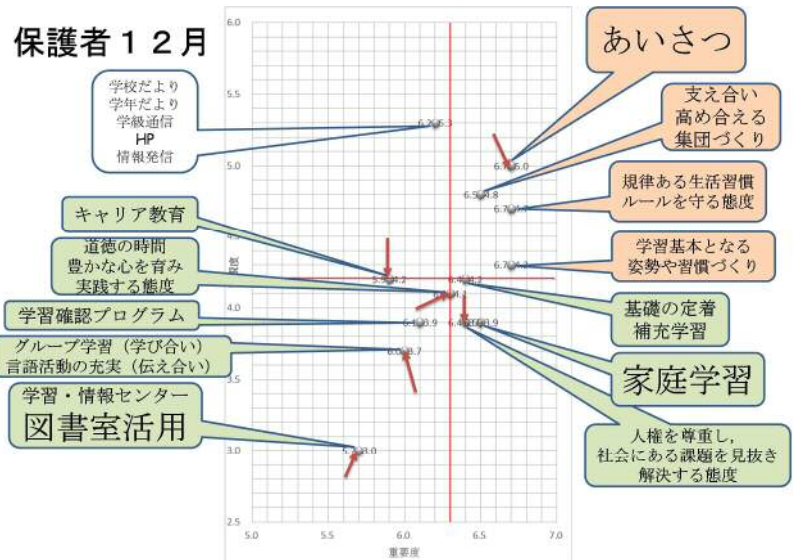
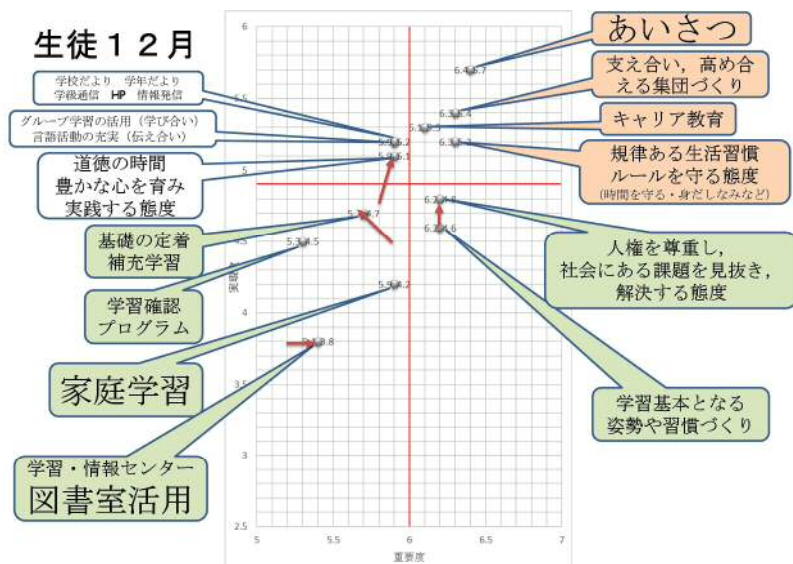
しっかりと「あいさつ」を	平均	重要度	実現度
	生徒	5.9 → 6.0	4.8 → 4.9
	保護者	6.2 → 6.3	4.2 → 4.2
	教職員	6.3 → 6.6	4.4 → 4.5

しつかりと「あいさつ」をし、学級、生徒会、部活動で「支え合い、高め合える集団づくり」、「規律ある生活習慣とルールを守る態度の育成」に重点を置いて取り組んで、成果が出ていると考えられます。

確かな学力を伸ばすために「学習基本となる姿勢や習慣づくり」、「基礎学力の定着を図る補充学習」、「学習確認プログラムの活用」、「キャリア教育」、「グループ学習(学び合い)と言語活動(伝え合い)の充実」に継続して取り組んでいきます。また、「家庭学習の充実」、「学習・情報センターとしての図書室活用」についても改善を重ねながら取り組む必要があります。

豊かな心を育み、実践する態度を育成するために「道徳」「人権尊重」についても計画的に取り組みを継続します。

詳しい評価結果は、裏面にあります。





平成26年度 学校評価実施報告書

3 2回目評価

平成26年度 重点評価項目		京都市立高野中学校			
・誇りを持てる学校づくり ・互いを大切にする仲間づくり		・確かな学力 ・開かれた学校づくり			
	分野	評価項目	自校の取組	アンケート結果	各種指標結果
1	学校づくり	規律ある生活習慣とルールを守る態度の育成  あいさつの徹底	担任二人制などきめ細やかな指導体制 生徒会による「服装見直し」キャンペーン  生徒会による「やまびこあいさつ」キャンペーン 校門や授業でのあいさつ	生徒・保護者の重要度・実現度とも高く、教職員の実現度は大幅に高くなっている。  生徒・保護者の重要度・実現度とも高く、教職員の実現度は大幅に高くなっている。	遅刻0、服装見直し、バル着キャンペーン等生徒会活動で意識向上している。  毎朝の校門でのあいさつ、校内でのあいさつが増加している。
2	確かな学力	学習基本となる姿勢や習慣づくり 家庭学習の充実  基礎の定着を図る補充学習 学習確認プログラムの活用 グループ学習(学び合い)の活用と言語活動の充実 キャリア教育の充実 学習・情報センターとしての図書室活用	共通した授業規律の設定 校内バトや個別支援 教科による課題設定の工夫 点検活動と支援  国数英のベーシック学習と学習会 休業中の学習会や土曜自習教室 予習・復習シートの計画的な活用  校内で共通しグループ学習の活用と工夫改善 校内授業研究 ファイナンスパーク学習やチャレンジ体験学習とその事前事後の学習 本の整理と配架の工夫 朝読書の継続実施	生徒・保護者・教職員とも重要度高く、実現度は保護者・教職員で向上。 重要度は教職員、保護者、生徒の順に低くなるが、実現度は向上。  実現度は教職員は高く、生徒、保護者は平均程度であるが向上。 教職員は重要度も実現度も平均程度、保護者、生徒はどちらも高くない。  生徒の実現度が高く、保護者、教職員の実現度は向上している。  生徒、保護者については変化なく、教職員の認識と実現度が向上している。  三者とも重要度、実現度が低いが、一定向上している。	各授業での取組姿勢改善が三者とも実感できる状況になった。 全国学習状況調査で家庭学習してる割合も多いが、してない割合も多い  ベーシック学習と学習会の一定成果があり、回数の確保や改善が望まれ 教科担当や担任が活用について指導や点検を行っている。  1年生コの字型で授業 全学年共通でグループ学習を実践  1年ファイナンスパーク学習実施 2年チャレンジ体験5日  ビフォア・アフター完了 水曜放課後開館開始 図書室で選書会
3	仲間づくり	支え合い、高め合える集団づくり  人権を尊重する実践的態度の育成 道徳の充実と実践的態度の育成	学級活動、生徒会活動の活性化 グループ学習の活用  いじめなど身近な課題、社会にある課題について解決する力の育成 道徳の時間の確保と資料や内容に関する継続的な分析 持ち回り道徳	三者とも重要度、実現度が高く、さらに向上している。  三者とも重要度が高く、実現度も向上している。  三者とも重要度、実現度も向上している。	学級活動、生徒会活動が安定してさらに活発になっている  人権学習の計画的、継続的に実施している。  道徳の時間を計画的、継続的に実施している。 学級通信での発信
4	学校づくり	学校、学年、学級だよりやHPでの情報発信 学校運営協議会の活用 学校評価システムの活用	学級、学年、学校それぞれの積極的な情報発信 PTA、地域生徒指導連絡協議会、小学校との情報共有 学校評価支援システムの活用 学校評価部会での分析	三者とも実現度は高く、保護者、教職員とも実現度が最も高い。  教職員において重要度も実現度も大きく向上している。  教職員において重要度も実現度も大きく向上している。	アンケートの保護者記述欄で学級通信に対する好意的記述が多い。  図書室ビフォア・アフターに協力 学校との情報共有 アンケートの実施と分析と、改善策の検討が定着してきた。

4 総括・次年度の課題

・規範意識が向上しており、今の取組を継続する。学校と社会、子どもと大人をつなぐ取組を充実させる。  
・グループ学習が定着してきており、話し合ったり、教えあったりすることで生徒同士の「学びによるつながり」が生まれてきた。全体的な学習規律は大きく改善し、学習意欲、学力向上にもつながっている。現在の取組を継続し、さらに学力向上、コミュニケーション能力の向上を図りたい。  
・生徒会活動を活性化させることで、互いを支え合い、高め合える集団づくりができています。新生徒本部を中心に各委員会活動をさらに活発に、自分たちで考え行動する自立した集団に育てていきたい。  
・図書室のリフォームにより、利用しやすい魅力的な図書室となった。授業での「学びの場」としてのより充実した活用を図りたい。

学校名(京都市立 高野 中学校)

自己評価		学校関係者評価	
評価日	1月15日、1月29日	評価日	2月12日、19日、24日
評価者・組織	企画・運営委員会 校内研修会	評価者・組織	PTA運営委員会 学校評価部会 学校運営協議会
分析 (成果と課題)	自己評価に対する改善策	分析や意見	改善策・支援策
規律ある生活習慣とルールを守る態度は、確実に向上している。生徒会活動も活発になり、いろいろなキャンペーンを行い、生徒自らの意識向上につながっている。	生徒会による様々なキャンペーン活動のように、生徒の意識を高める活動を継続して取り組めるよう支援する。	正しく判断することが難しい世の中であるが、生徒達には多くの情報をもとに正しく判断する力をしっかりつけてもらいたい。  あいさつを気持ちよくできる生徒が増えている。	多様な考え方から正しいものを選び出す力をつけるには、家庭・学校・地域の大人の関わる姿勢が大切である。  規範意識が向上しており、今の取組を継続すすとともに、社会に出ること見据えた取組も考えてほしい。
学習基本となる姿勢や習慣づくりについては、日頃の授業の様子から見ても一定成果が上がっており、落ち着いた環境で意欲を持って学習に取り組める姿が多くみられるようになった。基礎学力の確実な定着をめざすベーシック学習と学習会についても一定成果があるが、行事との関係で実施回数が限られる。全校で取り組んでいるグループ学習と言語活動の充実については校内研究など実践について工夫改善しており効果が出ている。学習確認プログラム、家庭学習、図書室の活用については、改善しつつ重要性和実現度を高める必要がある。	どの学年も授業に対して意欲的に取り組めるようになってきた。更に活用型の学力の定着と向上のために授業改善を継続し、意欲と達成感を高められるよう取組を継続する。 基礎学力の確実な定着のためにベーシック学習の実施回数を確保し、国語、数学、英語だけではなく、理科、社会についても実施を考える。グループ学習の活用と言語活動の充実については、全学年で継続して取組を進める。 家庭学習の充実に向けて、学習確認プログラムの事前・事後の課題への意識づけや日頃の課題の出し方等の改善を行う。	本校の図書室は蔵書も豊富でバランスがよいと聞いている。生徒の利用時間の確保と啓発が大切であろう。授業での活用も活発化してほしい。 「キャリア教育」の項目で保護者の評価が下がっているのは、「キャリア教育」の内容自体を理解しきれていないことからきているのではないかな。 「グループ学習(学び合い)」が「教え合い」ではなく、他人の意見を聞き参考にして答えを導きだすことだと知り、この取組がますます学習の場面で活用されることを期待する。 ポスターセッションの取組は評価できるが、話をする、話を聞く姿勢を伸ばすだけでなく、内容の充実も図ってほしい。	「グループ学習」が活発になり、その成果が学力向上やコミュニケーション能力の向上に役立っており、今後もしっかりと進めてほしい。  「キャリア教育」という言葉だけでは、保護者や地域の大人にとって内容がわかりにくい。理解を深める手立てが必要だろう。  大人との関わりがうまく持てない子どもが多く、チャレンジ体験だけではなく、大人と関わる取組を増やす必要がある。本に興味を持ち出すと、どんどんその興味は大きくなる。朝読書や図書室の活用により、本に関する興味を伸ばしてほしい。
学級活動、生徒会活動、部活動などで支え合い、高め合える集団づくりが実感を得て達成できていると考えられる。人権尊重と道徳教育についても評価できる取組を行っている。	生徒同士で話し合える場面を多くし、学び合える集団づくりを継続する。  人権・道徳教育については、生徒の実態に合い、タイムリーな働きかけをめざし、互いを大切にする実践力を養う。	生徒会活動、部活動が活発になっていると感じる。  日曜参観で道徳の授業を行っているが、内容について工夫されている。  「ものづくり」が心を育てるのに有効である。	互いを大切にする意識をそだてるためには、学級、生徒会、部活動の3つをすべて充実させることが大切である。  社会に出ていく体験が大切である。いろんな体験ができる機会を増やすようにする。
学校の情報発信について、保護者・教職員の実現度が最も高く評価されている。  学校運営協議会と学校評価の活用については、教職員の意識が向上しており、より一層活用することが必要である。	学校からの情報発信は積極的に継続する。さらに、日曜参観以外にも保護者の方や地域の方に生徒の活動の様子を見ていただいたり、支援していただく取組を考える。	いろいろな媒体を通じて学校の様子はよくわかる。今後も継続の方向でお願いしたい。  学校評価アンケートは毎回細かく分析されており非常にわかりやすい。	学校運営協議会としてどのような形で学校運営に協力できるか、相談しながら進めていきたい。  学校評価アンケートは毎回細かく分析されており、今後同様にもお願いしたい。